

経営比較分析表（令和5年度決算）

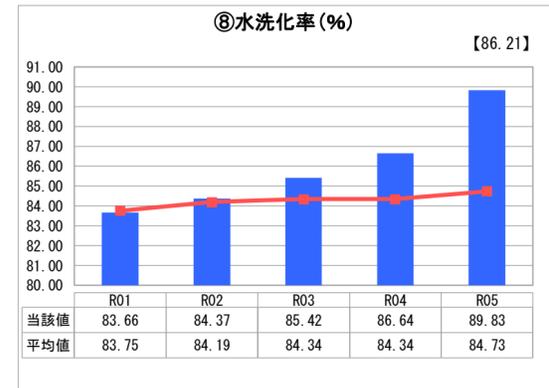
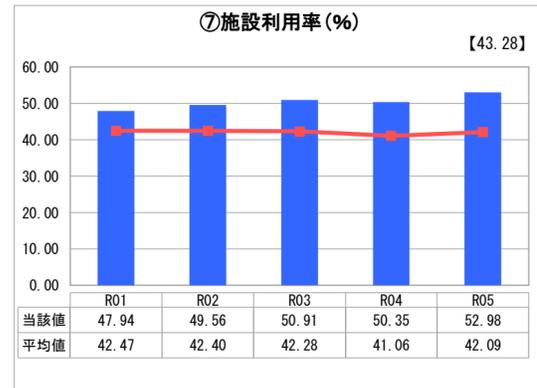
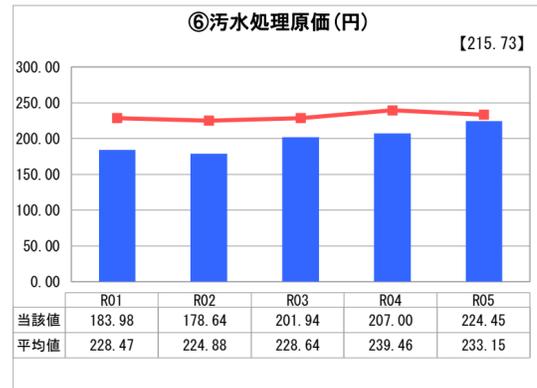
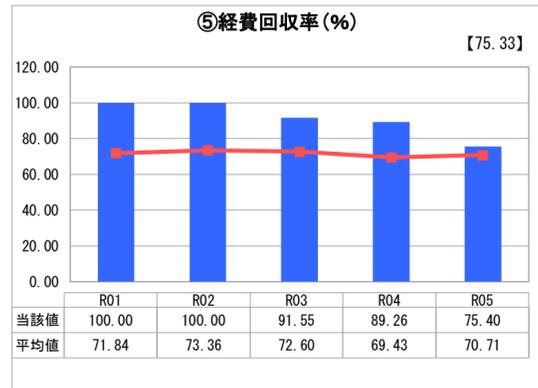
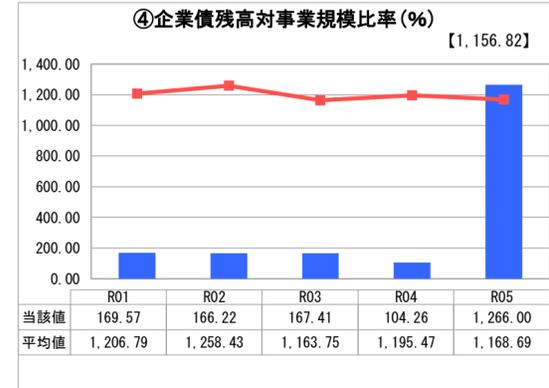
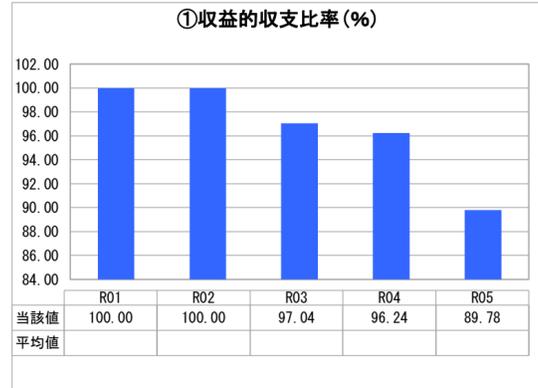
山形県 白鷹町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	23.40	71.18	3,520

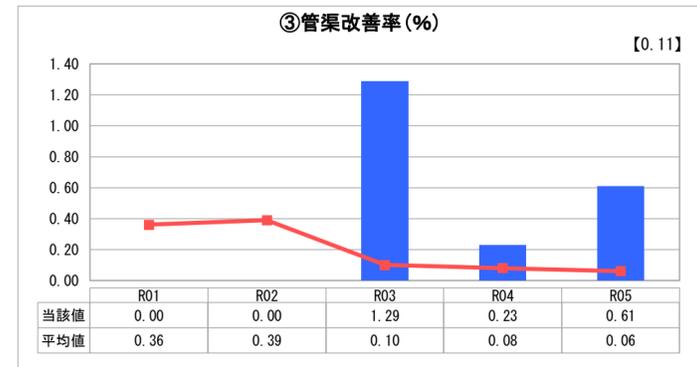
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
12,507	157.71	79.30
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
2,901	1.78	1,629.78

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率については、地方公営企業法適用に関する委託業務を収益的支出に計上しているため、100%を下回る値となったが、地方債を活用しているため実質的にはほぼ収支均衡を保っている。

⑤経費回収率については、前年度対比約15.5%の減となった。使用料収入については、農業集落排水の処理区の一部が特定環境保全公共下水道に統合されたことにより、約20.0%増加したが、法適用移行に係る委託料等の経費が増加したことで経費回収率は減少した。

⑥汚水処理原価についても、経費回収率と同様に使用料収入は増加したが、法適用移行に係る委託料等の経費が増加したこと等により、令和4年度を上回る数値となった。

⑦施設利用率は、類似団体と比較すると高い値で推移している。上述のとおり、農業集落排水の処理区が特定環境保全公共下水道に統合し、汚水処理水量が増えることから、今後、施設利用率は増となる。

2. 老朽化の状況について

本事業は、平成7年3月より供用を開始し、現在29年目を迎えている。

公共下水道と同様に、公営企業会計への移行を進める中で整理してきた資産情報等を踏まえて、計画的な施設等の老朽化対策を実施していく。

全体総括

本事業については、公共下水道事業と同様に、人口減少に伴う使用料収入の減少など、経営環境の悪化が想定されるところである。

将来的な負担を少なくするために、農業集落排水の処理区との統合による維持管理費の削減を図るほか、計画的・効率的な更新の手法を検討していく。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。